

平成28年度 第11回教育委員会定例会

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第1号 平成28年度垂水市一般会計補正予算（第8号）案についての市長への意見申出について</p>	<p>平成28年度垂水市一般会計補正予算（第8号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第1号 平成29年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について</p>	<p>平成29年度垂水市一般会計当初予算案の作成について、差し支えない旨回答しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>議案第2号 教育に関する事務について定める議案についての市長への意見申出について</p>	<p>「垂水市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例」制定の議案を提出することについて、差し支えない旨意見を申し出ようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>

平成28年度 第11回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成29年2月10日（金）</p> <p>午後1時57分</p> <p>↓</p> <p>午後4時40分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 長濱 重光</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p>	<p>教育総務課長 池松 烈</p> <p>学校教育課長 下江 嘉誉</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成28年度第11回教育委員会定例会を開会した。  
議案第1号から第2号の議案2件は非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

## 2 平成28年度第10回定例会会議録の承認

承認

## 3 議 事

報告第 1 号 平成28年度垂水市一般会計補正予算（第8号）案についての市長への意見申出について

議案第 1 号 平成29年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について

議案第 2 号 教育に関する事務について定める議案についての市長への意見申出について

## 4 その他

## 5 委員並びに教育長及び課長報告

## 6 閉 会

議事内容等

3 議 事	報告第 1 号
教育総務課長	平成 28 年度垂水市一般会計補正予算（第 8 号）案についての市長への意見申出について
	平成 28 年度垂水市一般会計補正予算（第 8 号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告した。
	（質疑なし）
	議案第 1 号
	平成 29 年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について（教育総務課）
	（非公開）
	議案第 2 号
	教育に関する事務について定める議案についての市長への意見申出について（社会教育課）
	（非公開）
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	1. 「垂水市 P T A 会員研修会について」
	1 月 28 日（土）垂水市 P T A 会員研修会に参加した。開催要項にもあったとおり、市内各校区の子供達にとって、21 世紀をたくましく生き抜くためには、豊かな人間性を培い、健康で、自ら学び、自ら判断し、自ら行動を起こすという根源的な「生きる力」の涵養が重要であると思う。
	計り知れない可能性を秘めた子供達を育てあげる確固とした理念を我々大人がしっかり捉えて、現在を取り巻く時代環境や社会情勢をしっかりと踏まえる中で、学校と家庭と地域社会が一体となって、子供達一人一人の生活環境や学習環境をより上質なものとして整えることが大変重要であると認識した。また、連携して地域の子供達の健全育成に努めるという、市内各地域を貫く共同体意識の醸成もどうしても必要である。そのための P T A 連絡協議会であり、皆が力を合わせるという点で、非常に重要な意味を持った研修大会であると思われた。
	そして、市内各校区 P T A の紙上発表もそれぞれ充実した内容であった。

特に協和小と垂水高校の実践発表は、それぞれのテーマに基づいた大変丁寧な内容のある実践報告であった。惜しむらくはと言うか、不足があるとすれば、それは、これだけの周到な準備の積み上げの上に成り立った大会資料や、本研修大会のために関わった多くの人達のエネルギー、その懸命さに対して、その成果を受容し敷衍すべき人達、またその任を負うべき大会参加者の数があまりにも少なかったと思われた。素晴らしい研修会の内容を一人でも多くの人達に行き渡らせることが出来たらいいなと願う者として、この点が大変残念に思われた。

田原委員

#### 1. 「水之上小学校評議員会について」

1月14日（土）、水之上小学校の評議員会に参加した。授業参観と2学期の先生方の自己評価に基づく学校評価についての意見交換会であった。授業参観は、土曜授業で全国学力テストのB問題への挑戦などの内容であったが、指導法改善として共通して取り組まれている学習のしつけ、話を聞く姿勢、発表の仕方、グループでの話し合いの仕方、ホワイトボードへのまとめ方、問題解決的なめあての立て方など研究の成果が出ていると思った。児童一人一人、理解力は違うが、どの子も一生懸命学習に取り組んでいる姿が見られてよかった。

評価の中で、家庭での宅習や学校からの配布物などに毎日目を通せない親もいるようで、親の努力も必要だと感じた。

#### 2. 「第1回おんだんこら実行委員会について」

1月23日、第1回おんだんこら実行委員会をして、演芸の部、抽選会の部、うどんコーナーの部などに役割分担をして、取組を進めている。

昨年からの祭りを子供から大人まで楽しめる祭り、そして全市的な祭りにしようという考えで進めていて、カラオケの部は小中高生の参加が出来るのは変わらないが、水之上小だけでなく今年は垂水小にも参加を呼びかけてある。

また、市内各地の伝統芸能や人気芸能を披露してもらおうと、今年は中俣の川踊り、牛根のひょっこり踊り、新城のスコップ三味線などにも出演を依頼している。

さらに、演芸大会だけが目立って本来の祭りの目的がぼけてしまっているので、ゴルフ場の上にある標高800メートルの山の頂にある白山神社への登山を復活させようと、今三和づくり計画の見直し版では、登山道の整備や道しるべなどを立てようとしている。今年は間に合わないが、4～5年後には白山登山復活を何とかしたいと思っている。

中谷委員

#### 1. 「学校応援団活動について」

1月16日、学校応援団で、中央中のバス、牛根線に乗った。通学バス添乗であり、朝6時に家を出て乗り込んだ。毎回運転手さんが安全運転をされて感謝している。

校長先生が、学校だよりで、「地域の皆様のお力をお借りしながら、より充実した教育活動を進め、心豊かな生徒が育つように一層努めてまいります。」と、お書きになっておられた。また、市報に、応援団が文部科学大臣表彰受賞と記されており、とても嬉しく思った。

中谷委員	<p>2. 「女流作家 井口スズ子さんについて」</p> <p>1月17日、女流作家 井口スズ子様がお亡くなりになられた。お好きな絵と共に過ごされ、穏やかなお人柄は、私共の垂水市の、柗原の誇れる大先輩である。スズ子様の絵は、小中学生の眼に心に焼き付いたことと思う。</p> <p>3. 「わくわくどきどき！夢教室について」</p> <p>1月31日、わくわくどきどき！夢教室が開催され、フェンシング教室だった。開会してからすぐ会場内が日本ではなく、世界になり、「英語、仏語は当たり前。今からの君達は、是非世界に目を向けてほしい。」と、始まりました。「何事も自分でつかまえることをし、目標を高く自信を持って進んでいくことが大事である。」と話された。</p> <p>厳しい状況の中でも、日本中、世界中に友達がいることが自慢であるとも話され、きっと会場の子供達も力が湧き、何だか何でもできるんだと、わくわくしてきたことと思った。フェンシングをやってみようと思うとたくさんの子供達が興味を持ったかもしれない。この会は大成功だったと思う。</p>
葛迫委員	<p>1. 「わくわくどきどき！夢教室について」</p> <p>1月31日（火）オリンピックメダリストの太田選手を迎えての「わくわくどきどき！夢教室」が垂水市文化会館で開催された。太田選手のほか鹿児島南高校出身でオリンピック出場経験のある市ヶ谷、西田選手による講演と実技がトークショーを絡めてあった。</p> <p>実技では、鹿児島南高校のフェンシング部員や地元の小学生が登場し、フェンシングの競技について紹介がされた。</p> <p>なじみの薄い競技であるフェンシングに子供達は興味を示していないように見えたが、太田選手の「どんな夢を持っているの。」の問いにも、「野球選手、サッカー選手、花屋さん。」などといった答えが返ってきた。しかし、そこはオリンピックのメダリストというか、子供達の心をつかむのが早い。太田選手は子供達との距離をどんどん縮め、太田選手と会場の子供達はすぐに溶け込んで、元気あふれる「夢教室」となっていた。</p> <p>会場は元気あふれる子供達の姿が印象的だった。これこそ「夢教室」という気がした。太田選手のオリンピックでメダルを取るという目標、「最高の目標を立てて、夢に向かってほしい」といった言葉が、説得力があった。素晴らしい「夢教室」だった。</p> <p>また、ミュージカルに「夢」をかけた大隅の高校生グループによる『ヒメとヒコ』公演が、2月4、5日に鹿屋市文化会館で開催された。垂水の高校生が出演するというのもあって、会場に足を運んできた。夢を持って活動する子供達はどんな練習にも耐え、演出家の厳しい練習や指導を受け続けることができ、本番を迎えているような感じがした。自信あふれた所作や言葉には、観客一同が感動そのものだった。そこにも、演技する高校生と観客の距離の無さがあった。</p> <p>「距離が無くなる」ということは、「自信をもってきた」ことに繋がっているのではないか。今後も「夢」の大切さを子供達に伝え続けることが大事だと痛感した。</p>

<p>教育長</p>	<p>1. 「ティーチャー学びの教室について」  1月27日（土）、市内の教職員、教育委員会の職員を対象にティーチャー学びの教室を開催した。本年度が3回目の開催となり、県教委の義務教育課の上村指導監をお招きして、「語彙力を身に付けさせるための国語の教育について」、国語の大切さをご講話いただいた。先生方は夕方だったが、70名近くの方々が参加してくださって、先生方の感想文の中にも、「今後の指導に活かせる有意義な講話であった。」と評価をいただいた。また、その後、希望者だけ38名だったが、講師を囲んで懇親会を開催した。本市の先生方の研修意欲はすごいものがあり、時間外にあれだけの先生方が参加くださったのはありがたく、また、感謝しているところだ。今後とも継続していきたいと思う。</p>
<p>教育総務課長  学校教育課長  社会教育課長</p>	<p>1月13日から2月10日までの主な行事等について報告。  併せて、3月14日までの行事予定についてお知らせした。</p>
<p>6 閉 会</p>	